

絡をするとか、それらの優先順位をどうするか、パニックになると思いますね。特に行動の優先順位を決めるのは大事だと思いますよ。

それで、食糧なんですけれど、阪神大震災のときも壊滅状態の中、コンビニが随分残っていたという状況があります。

災害が発生したとき、よく「最初の3日間が大事」と言いますね。要するに、被害想定ですと、短期避難の場合は用意してある食糧は1日分なんです。ただ、3日間耐えれば、ほかから入ってきますので、そこまですぐまく機能させるといったことが大事なんです。

そういう意味で、白石市の提携は、食糧確保の面で非常に有効だと思います。

風間…レンタル会社と提携したというのは、新潟中越地震の時の元山古志村の村長の講演をお伺いしたときに、「食べ物は何とかなる」とおっしゃっていらしたんです。それよりも問題はトイレなどの衛生関係だったんだそうです。

源栄…そうですね。簡易トイレなどの不足は深刻でしたね。他県から入れてもまだ足りなくて、非常に苦労したようです。

風間…それでレンタル会社と提携したんですが、当市では姉妹都市の登別市や海老名市とも提携していますので、それを3つ入れて皮

算用かもしれませんが、災害初期にビッグレンタルさんが来て、後で姉妹都市2市から来てもらえば、まず安心を確保できるかなと考えています。

源栄…近くの町はお互いに被害を受ける可能性がありますけど、小さい地区とで相互に協力し合うこともやはり大事だと思います。離れたところは頼りになりますね。

風間…昨年10月に、越河地区で土砂災害防災訓練を県と共に、防災協定を締結している企業のほか、市内の建設業者さんにも来ていただいて、一緒に訓練したんです。とにかく「白石を守る」というのが市の役目なんです、われわれが動けるまでの間の自主防災というのも、もつと訴えていきたいと思っています。

源栄…災害が起こったときには建設現場と工事発注者、そして行政がすぐ連絡を取る必要があるんです。今、宮城県建設業協会の外郭団体である(財)宮城建設総合センターの情報化特別委員会が災害掲示板を作る動きがありまして、そこで情報交換しようとしています。こういったことが二次災害を防ぐために非常に大事なんです。

GISを活用した防災対策

風間…そうですね。先生にも大変

のイメージを見て、「どうしてこうなるんだらう」と考える児童が出てきたとしたら、非常に良いことだと思います。長町小学校に入ってから3年が経ちます。もう中学生になっている子もいるでしょう。これが契機となって、将来ひよつとしたら私の研究室に来る子がいるかもしれない。楽しみですけど、そういった付加価値もあると思います。



▲白石中学校の緊急地震速報システム

今、宮城県教育庁に導入しているイントラネット「みやぎスワン(SWAN)」を用いまして、県立高校と加盟市町村の小中学校に緊急地震速報を配信する取り組みを文部科学省の事業で行っています。白石市もすべての学校がスワ

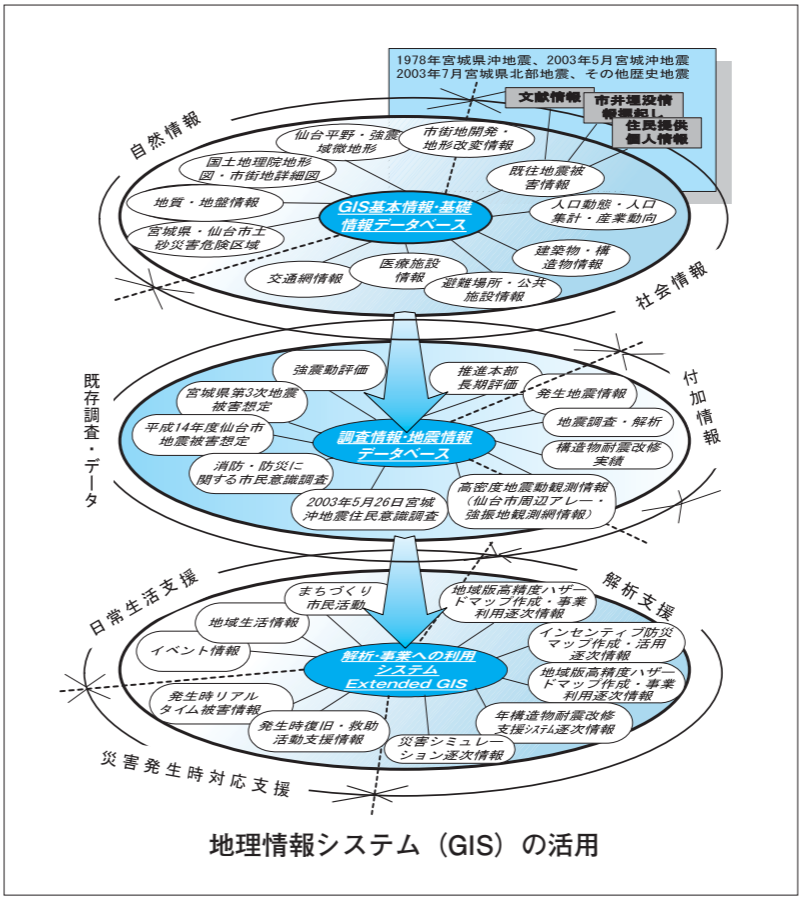
お世話になった白石のGISを使いまして、土砂災害や水災害などのハザードマップを全戸に配布したんですが、さて問題はそこから活用していきけるのかと。

源栄…やはり、GISとして例えばインターネットを介してやり取りができるというように、情報を共有化して使うというのが大事なんだと思いますね。

風間…インターネットで共有するわけですね。源栄…大学や自治体、防災関係機関など、専門家の間で共有したり、ある情報は市民がインターネットから直接取れるようにしたりします。だんだん若い世代は通信機器の取り扱いがうまくなっているんですが、紙ベースも大事な形の方がいいのではありません。GISを作るために行った土地分類調査の成果は非常に大事です。さまざまな加工ができます。最終的に、既存の調査データや付加情報を加えて、日常生活や災害発

生時の支援といった活用ができます。これを市民が常に動く形で受け取れるようにするのがいいと思いますので、インターネットベースで見れるような、使いやすい形に加工する作業が必要になってくると思いますね。

風間…なるほど！加工しやすくないながら共有できるということが大切な点ですね。源栄…はい。共有プラットフォームといわれるものなんです。私



ンに入っていますので、パソコンを1台用意していただくと、全小中学校で体験できるようになります。ぜひご協力をお願いしたいと思います。

風間…地震が段階的に来るというのを、実は宮城県沖地震のときに体験したんです。まだ高校生だったので、夕方ですよ。

源栄…はい、5時14分です。風間…仙台に電話していたときに、だいたい同時に地震だという感じがしたんです。それで、「地震ですな」といった会話をしたんです。話を話していたんです。そうしたら、まだ会話中なのに電話の相手が「わー」といって外すんですよ。まだ、白石は揺れていないんですよ。なぜそんなに思っていたら、そのうちドーンですよ。

源栄…電話をかけていて、時間のずれを体験したんですね。大変な体験をしましたね。

風間…今考えると、そのタイムラグというのは資料にあるこれなのかなと思いますけれど、当時はちよつと分からなかったですね。

源栄…仙台では15秒ぐらい、白石では25秒から30秒ぐらい余裕があります。白石は、特に宮城県沖地震に対しては効果があると思いますね。

それと、地震というのは本震の前に前震を伴ったり、余震がどん

どもでは今、文部科学省の防災研究成果普及事業の中で共有プラットフォームを作る取り組みも行っていきます。

風間…共有プラットフォームですか。源栄…ええ。実はこれは、ものすごい効率化にもなるんです。さまざまなところでお金をかけて持っていたものを、一つにするということですから。

どん来るんですよ。復旧作業をしているときに、余震が来ると怖いんです。そのとき「地震が来ますよ」と知らせてくれれば、作業をやめるといった二次災害の防止に役立つと思います。ただ、本震でシステムが駄目にならないように、衛星や地上回線など、二重化する必要もありますね。

風間…そういったものが、自然に全部普及していくことが望ましいですね。

源栄…そのためには、学校というのは大事ですね。

風間…当市の場合、アテネという情報センターがあるんです。そこにもうまく配信できると、光ファイバーで市の行政施設すべてに配信できるシステムを持っていますから、それをうまく活用できないかと思っっているんですが。

源栄…自治体のイントラネットを使うというのは、一つの配信手段なんです。

風間…白川や越河、小原地区にもADSLが入るようになりましたので、それも利用しながら、今後インフラの整備は行政がしていかなければなりません。そして、自主防災組織をまずは皆さんで立ち上げてくださいな。

源栄…住民の立場からすると、自助・共助の部分ですね。これはお金をかけないでやれますね。

風間…そこで、公助が必要となり



南町における防災ワークショップ

風間…地震は来てもらいたくないですけどね。先生には、特に南町地区の子どもたちにご指導いただいていますので、さつき言ったその子どもたちが大きくなったときに、防災のプロになってくれるといいですね。